

高円寺駅周辺エリア防災計画

高円寺駅前滞留者対策連絡会

令和 8 年 1 月

1 計画策定の背景

首都直下地震(マグニチュード7.3)が午後6時に発生した場合、杉並区内には、学校や会社にいる人、買物をしている人、移動中の人で約41万人の滞留者が発生すると推計されています。JR高円寺駅周辺では、中央線の乗降客や駅周辺の買物客などにより、数千名の駅前滞留者が発生することが想定されます。

※JR高円寺駅の一日あたりの平均乗降客数(2021年度)

80,096人（乗客数40,048人×2で算出）

鉄道機関では、全線が停止となり線路や駅舎の点検確認に入り、被害状況によっては数日間の運行停止となり、徒歩による帰宅困難者が多数発生すると想定されます。

JRから南約900mに位置する青梅街道の地下を通る東京メトロ新高円寺駅や東高円寺駅でも、多数の帰宅困難者が発生することが想定されます。

※東京メトロの各駅の平均乗降客数(2022年度一日平均)

新高円寺駅 31,901人(乗降客数)

東高円寺駅 29,765人(乗降客数)

(参考)多摩東部直下地震による杉並区での被害想定(令和4年5月発表)

・規模 M7.3 ・時間 午後6時 ・風速 8m

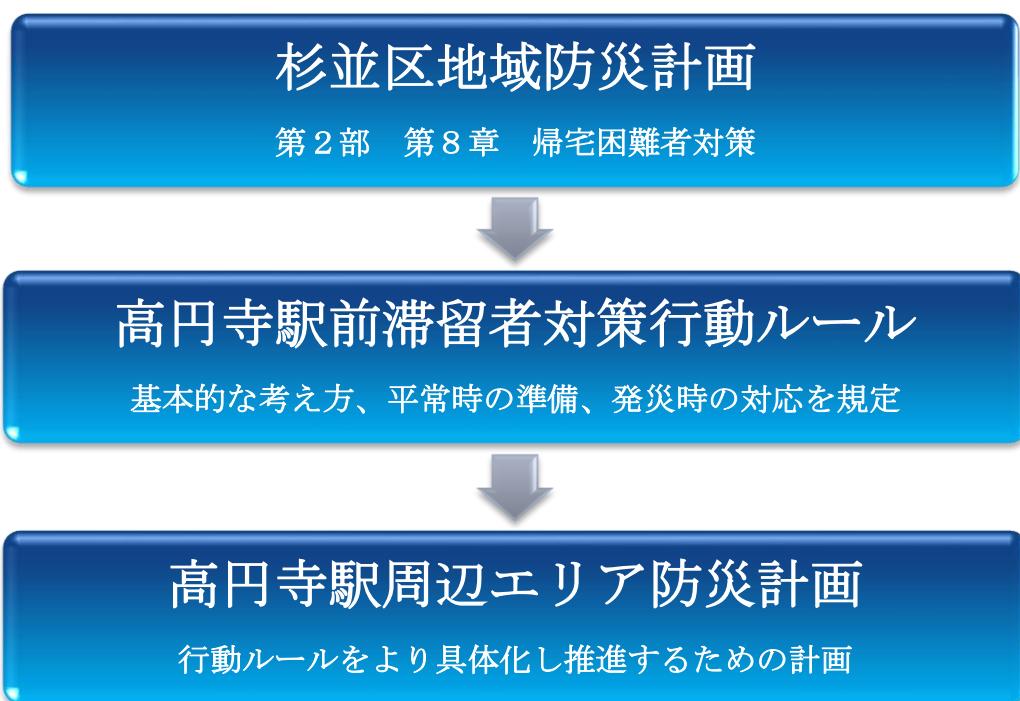
死者	316人
負傷者	3,410人
建物被害(全壊)	3,233棟
地震火災(焼失)	10,645棟
避難者数	122,469人
帰宅困難者	51,411人

2 計画の目的

- 大規模地震等発生時の高円寺駅周辺地域で想定される、滞留者や帰宅困難者の発生による混乱を防止し、安全に暮らせるまちづくりに資する。
- 高円寺駅周辺の事業者等関係機関との連携をさらに強め、災害に強いまちづくりを確立する。

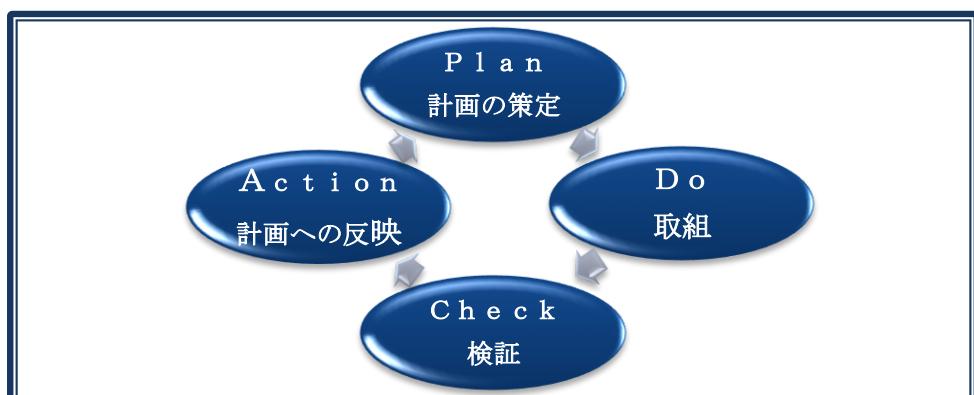
3 計画の位置づけ

高円寺駅周辺エリア防災計画は、杉並区地域防災計画（総則・予防対策）「第2部第8章 帰宅困難者対策」及び「高円寺駅前滞留者対策行動ルール」に基づき、帰宅困難対策、駅前滞留者対策をより具体化し、推進する計画である。



4 計画の対象期間及び推進

- 本計画は、期間を定めず、P D C A サイクルにより、計画にそって取組の実施、結果の検証、改善、計画へのフィードバックを行う。
- 本計画をより実効性のあるものとするため、本計画の趣旨・内容を、高円寺駅周辺住民をはじめ、幅広く周知を図り、関係者の理解と協力を深めていく。
- 本計画に記載する滞留者等の安全確保に向けた取組等が、災害時にも円滑に実行できるように、定期的に訓練等を実施する。



5 地域特性及び課題

- ・高円寺駅に比較的近い場所の公共施設として、「ゆうゆう高円寺南・北館」「杉並芸術会館（座・高円寺）」「旧杉並第四小学校（次世代型科学の拠点「IMAGINUS」）」「高円寺学園」「杉並福祉事務所高円寺事務所」「高円寺体育館」などがあります。
- ・主要な道路としては、南側に青梅街道、北側に早稲田通り、東側に環状7号線があるほか、高円寺駅南口から青梅街道に続く高南通りがあります。他の道路には、狭あい道路が多く存在します。
- ・高円寺駅は、南口と北口に広場がありますが、十分な滞留可能スペースとは言えません。また、災害時には、東京メトロ新高円寺駅から避難者が流れてくる可能性もあります。なお、東京メトロ東高円寺駅には、防災公園である区立蚕糸の森公園（広域避難場所）があり、避難者の滞留可能スペースがあります。
- ・商店街の脇道には、住宅地で老朽した木造住宅が多く、火災危険度が高い木造住宅密集地域に指定されています。（阿佐谷南地区、高円寺南地区が木造住宅密集地域）
- ・高円寺駅では、駅舎の耐震化や食料、飲料水などの備蓄を進めている一方、一時滞在施設への誘導などに要する人員不足の課題があります。
- ・連絡会委員には、震災救援所役員を担っている方も多く、滞留者対策の対応が困難な実態があります。
- ・広域避難場所としては、中野区との区境に「中野区役所一帯」の広域避難場所があるほか、東京メトロ東高円寺駅周辺に、「蚕糸の森公園一帯」や「セシオン杉並妙法寺一帯」の広域避難場所があります。また、一時避難地としては、「馬橋公園」があります。
- ・新宿や中野等の都心部から、多数の帰宅困難者の流入が想定されます。

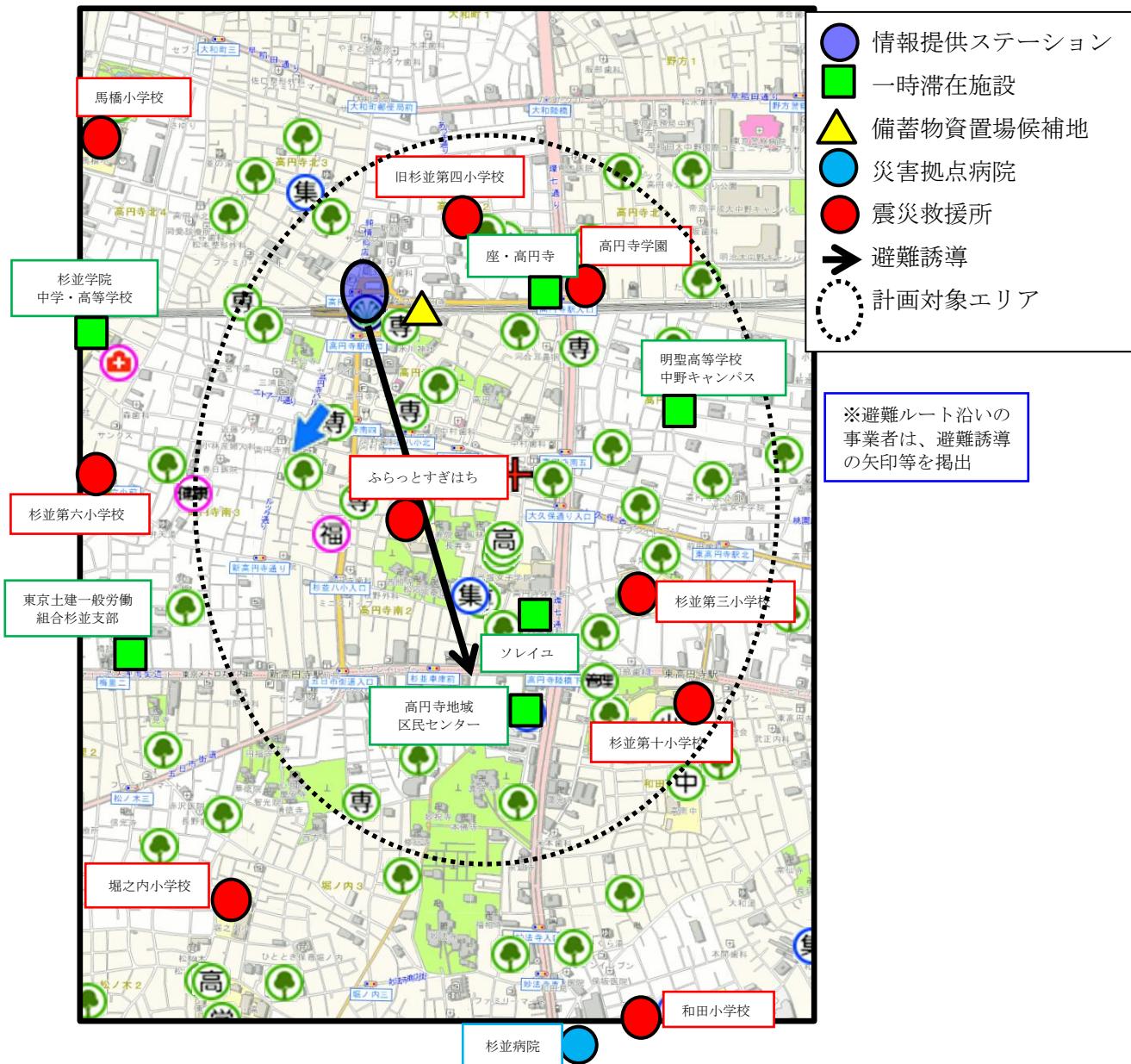
【今後検討すべき課題】

- 行政・鉄道事業者・商業施設等、関係機関の役割の継続的な検討
- 発災時における情報の共有、提供方法
- 配慮が必要な滞留者（外国人・障害者・高齢者・妊婦・乳幼児等）の対策
- 新たな一時滞在施設の確保
- 一時滞在施設等への誘導方法及び誘導主体の具体化
- 隣接区（中野区）との連携

6 災害発生時の連携・協力体制

駅周辺等において、情報提供を行うとともに、状況に応じて安全な地域や一時滞在施設への避難誘導、一時滞在施設の運営協力を行う。

＜高円寺駅周辺の帰宅困難者対策（イメージ）＞



- 高円寺駅周辺では、南口または北口広場に情報提供ステーションを設置し、駅周辺の滞留者に対し、災害関連情報の提供を行います。情報ステーションで使用する物品については、駅舎などに保管（約 $6\text{ m}^3 = 2 \times 3$ ）できるか検討が必要となる。

また、駅構内の安全が確認された場合は駅構内への誘導を行い、一時滞在施設が開設された場合や近隣の施設に滞在スペースを確保できた場合には、当該施設への誘導を行う。

7 災害関連情報の提供

(1) 情報収集及び情報提供

- 区は、国、都、警察、消防、鉄道事業者、公共機関等から災害関連情報（公共交通機関運行状況、道路被害状況、一時滞在施設開設状況、火災発生状況等）の収集や公開型G I S 「すぎナビ」への投稿情報の活用を行い、収集した情報を防災行政無線等を通じて、公共交通機関、避難所、一時滞在施設等へ定期的に提供する。
- 区、高円寺駅周辺の事業者、町会、商店会等（以下「駅周辺事業者等」という。）は、滞留者への情報提供の場として、駅周辺に情報提供ステーションを設置する。

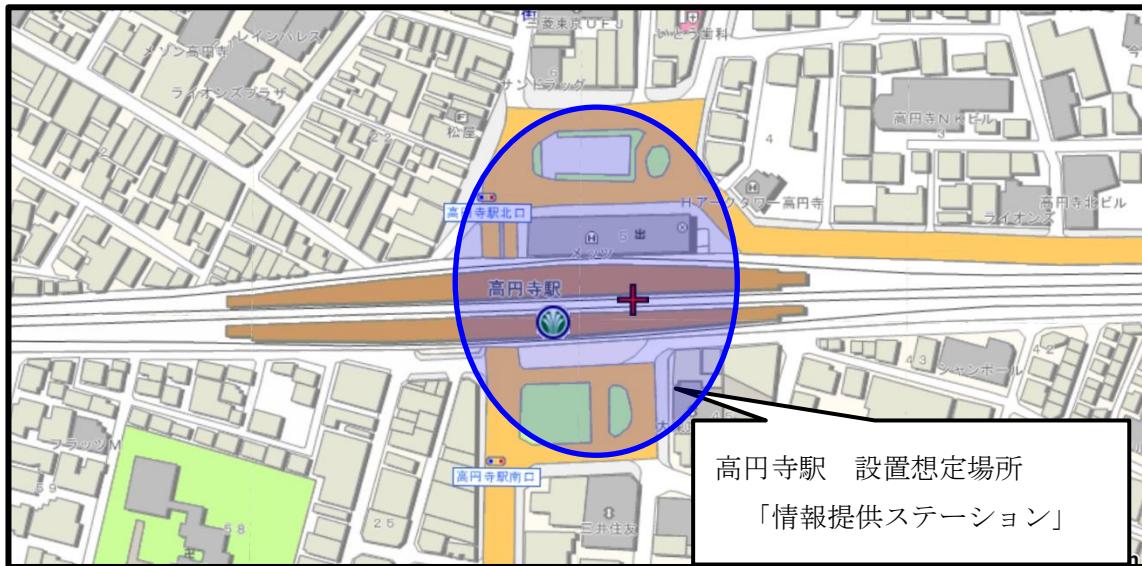
(2) 情報提供ステーションの運用

- 情報提供ステーションは、区、駅周辺事業者等が連携・協力し、運営する。
- 駅周辺事業者等は、自助の取組が一定程度落ち着いた後に参集のうえ、情報提供ステーションを設置する。
- 区は、駅及び情報提供ステーションにおいて、防災行政無線等により災害関連情報（一時滞在施設の開設状況を含む）の提供を行う。
- 情報提供ステーションは、駅前滞留者に区が事前に準備した高円寺駅周辺地図（災害時帰宅支援マップ）を配布し、近隣の広域避難場所、一時滞在施設等の案内を行う。
- 物品の保管スペースにおいて、駅舎などに保管ができないかを早急に調整する必要がある。
- 区職員（救援隊本隊帰宅困難者対応班）は、駅周辺事業者等と協力し、情報提供ステーションの運営にあたる。

(3) 情報提供ステーション設置備品（例）

- | | | |
|-----------|-------------------|--------------|
| ○ テント | ○ 机、椅子 | ○ 投光機及び発電機 |
| ○ コードリール | ○ メガホン | ○ トランジスタメガホン |
| ○ 看板 | ○ ベスト | ○ ヘルメット |
| ○ 筆記用具 | ○ 帰宅困難者支援マップ（配布用） | |
| ○ ホワイトボード | | |

(4) 情報提供場所

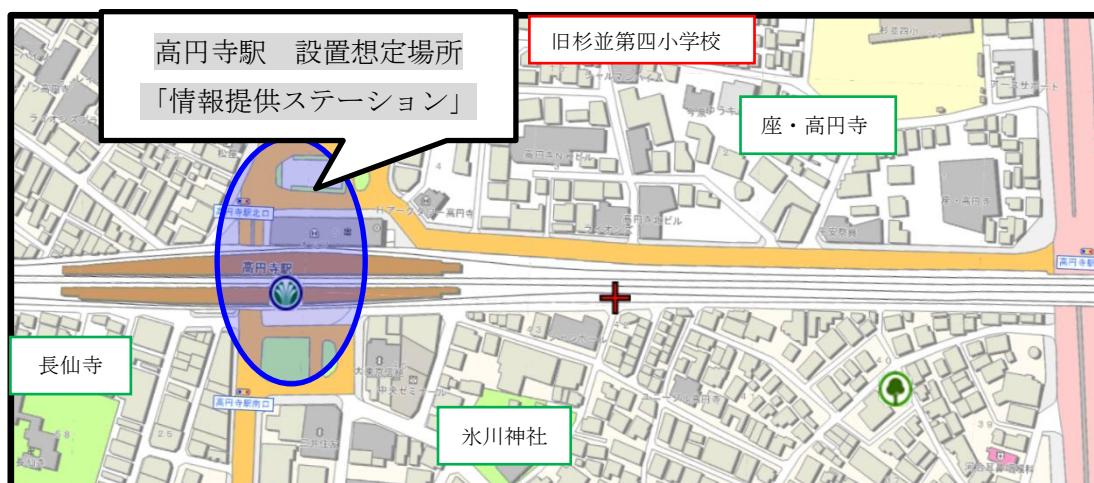


8 避難誘導

(1) 避難誘導方法

<第1段階（災害発生から一定程度落ち着くまで）>

- 施設管理者や鉄道事業者は、各々のマニュアルに従い従業員、職員、利用客等の安全を図る。
- （建物の被害や火災等で）施設の安全性が確認できない場合や、利用者数が収容範囲を超えているなどの理由で利用者を施設外に誘導する際は、情報提供ステーション等で情報を共有するとともに周辺の空地等の安全な場所までの避難誘導を行う。
- 避難路となる道路状況や火災の影響などを確認する。
- 停電により、信号が停止している等の状況で混乱が予想されることから、横断歩道の両端に人員を配置するなど安全な避難誘導を行う。



<第2段階（一時滞在施設が開設されてから）>

- 情報提供ステーションは、区から一時滞在施設が開設された情報を、高円寺駅周辺の滞留者に提供し、一時滞在施設まで避難誘導する。
- 避難誘導を行う際は、ヘルメット、共通のベストを着用のうえ、誘導灯及びメガホンにより行う。

9 一時滞在施設

(1) 高円寺駅周辺の一時滞在施設（令和8年1月現在）

	施設名	所在地	最大受入人数
区立	高円寺地域区民センター	杉並区梅里1丁目22番32号	957
	阿佐谷地区区民センター	杉並区阿佐谷北1丁目1番1号	440
民間	立正佼成会 大聖堂/第二団参会館	杉並区和田2丁目11番1号/杉並区方南2丁目29番25号	500
	東京土建一般労働組合 杉並支部	杉並区高円寺南3丁目6番2号	100
	座・高円寺	杉並区高円寺北2丁目1番2号	120
	杉並学院中学・高等学校	杉並区阿佐谷南2丁目30番17号	130
	明聖高等学校 中野キャンパス	杉並区高円寺南5丁目15番3号	50
	ソレイユ	杉並区高円寺南2丁目35番15号	25

(2) 中野駅周辺エリアの一時滞在施設（令和8年1月現在）

	施設名称	所在場所
1	明治大学 中野キャンパス	中野区中野4丁目21番1号
2	帝京平成大学 中野キャンパス	中野区中野4丁目21番2号
3	早稲田大学中野国際コミュニティプラザ	中野区中野4丁目22番3号
4	トヨタモビリティ東京株式会社中野新井店	中野区新井2丁目47番2号
5	KOENJI Krossover	中野区大和町1丁目67番8号
6	中野都税事務所	中野区中野4丁目6番15号

(3) 一時滞在施設の開設

各一時滞在施設は、施設の損傷の有無や施設利用者の滞在状況を確認し、一時滞在施設の開設の可否について I P 無線機を通じて区に連絡する。

区は、開設した一時滞在施設に関する情報を防災行政無線、I P 無線機、ニアラート、エリアメール、防災情報メール、ホームページ、各種 SNS により、鉄道事業者、情報提供ステーション等に情報を提供する。

(4) 一時滞在施設の運営内容

一時滞在施設の運営は、各施設のマニュアルに基づき、主に以下の項目について、施設管理者と区職員（帰宅困難者対策班）とが協力して行う。突発事象発生時については、協議して運用し、応援が必要な場合は区災害対策本部に支援を要請する。

- 帰宅困難者の滞在スペースの提供
- 施設滞在者への食料、水、生活物資等の提供（施設への物資運搬含む）
- 施設滞在者への災害関連情報（被災状況、交通情報等）の提供
- 施設滞在者への通信連絡手段（特設公衆電話、携帯充電器等）の提供

(5) 一時滞在施設運営支援

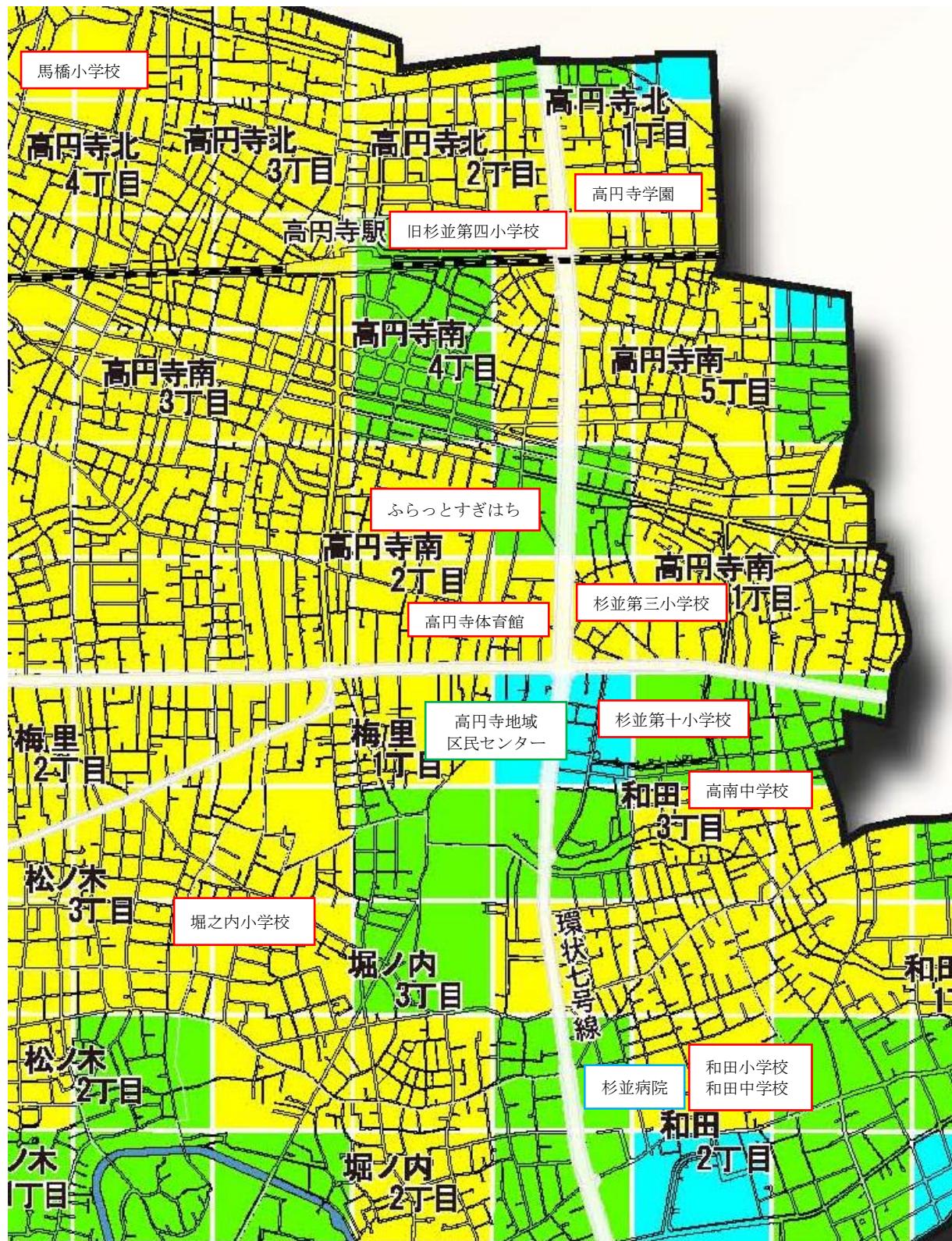
一時滞在施設に避難者が殺到し混乱する可能性がある場合は、可能な範囲で駅周辺事業者等も支援する。

- 備蓄物資の運搬及び配布
- 一時滞在施設運営用資機材の設置
- 施設内の防犯、警備

(6) 広域避難場所の活用

火災発生状況により、適宜安全な誘導路を案内する。

※地震被害シミュレーション（焼失18時・8m/s）



情報提供ステーション資器材一覧

番号	資器材	個数
1	テント	1台
2	テント用重り（10kg）	4個
3	テーブル	1台
4	ランタン	2個
5	メガホン	2個
6	のぼり	2枚
7	のぼり用さお	2本
8	誘導棒	20本
9	ヘッドライト	20個
10	ベスト	25枚
11	軍手	12双
12	電池単1、単2、単3	各10パック
13	養生テープ	4個
14	A4用紙	1冊
15	マジック	3本
16	折り畳みコンテナ	2個
17	イーゼル	2個
18	ホワイトボード	1枚
19	ホワイトボード用マーカー	3本
20	ホワイトボード用イレイサー	1個
21	駅前滞留者用地図（ポスターサイズ）	1枚
22	駅前滞留者用地図（配布用）	1500枚
23	フェイスシールド	25枚
24	マスク	50枚
25	ゴム手袋	50双
26	台車	1台